

## 主 題：自由人として生きる4

## 聖書箇所：ガラテヤ人への手紙 5章16-18節

私たちはガラテヤ人への手紙から、自由とされた者として、自由人として生きるということを具体的に学んでいます。今朝はまず、ローマ人への手紙6章4節を見ていただきたいと思います。「私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあつて新しい歩みをするためです。」とパウロはこのように記しています。「新しい歩みをするため」と、私たちが学んでいるようにパウロはここでも同じことを教えています。なぜ、私たちが「新しい歩み」をするのか？それは私たちが神によって新しく造り変えられたからであると言います。救いに与った者として、罪から救い出され自由とされた私たちが、この新しい人生をどのように歩んでいくのか？そのことをガラテヤ書から学んで来ました。

覚えておられますか？皆さん、パウロは私たちに「御霊によって歩みなさい」ということを教えました。「歩む」ということは、一歩ずつ足を前に出して進んで行くことです。一瞬一瞬、与えられたその日をしっかりと歩み続けて行くことです。「歩みなさい」という動詞は現在形を使っています。そのように「歩み続けて行きなさい」ということです。実は、聖書にはこの「歩みなさい」ということがたくさん教えられています。今からそれを読み上げますが、ここで言われている「歩み」はある人の歩みを表しています。そのことを考えながら聞いてください。このように「歩みなさい」と言います。

- ・謙遜と柔和とをもって : エペソ4:2「謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、」
- ・聖さ正しさをもって : ローマ13:13「遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方をしようではありませんか。」
- ・満足をもって歩め : ヘブル13:5「金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもので満足しなさい。主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」
- ・信仰のうちに歩みなさい : IIコリント5:7「確かに、私たちは見るところによってではなく、信仰によって歩んでいます。」
- ・良い行いをもって歩みなさい : エペソ2:10「私たちは神の作品であつて、良い行いをするためにキリスト・イエスにあつて造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。」
- ・救われていない人とは異なる歩みを : エペソ4:17「そこで私は、主にあつて言明し、おごそかに勧めます。もはや、異邦人がむなしい心で歩んでいるように歩んではなりません。」
- ・罪の中を歩んでいる兄弟から離れて歩みなさい : IIテサロニケ3:6「兄弟たちよ。主イエス・キリストの御名によって命じます。締めりのない歩み方をして私たちから受けた言い伝えに従わないでいる、すべての兄弟たちから離れていなさい。」
- ・愛をもって歩みなさい : エペソ5:2、3「:2 また、愛のうちに歩みなさい。キリストもあなたがたを愛して、私たちのために、ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしいかおりをおささげになりました。:3 あなたがたの間では、聖徒にふさわしく、不品行も、どんな汚れも、またむさぼりも、口にすることさえいけません。」
- ・光の子どもらしく歩め : エペソ5:8「:8 あなたがたは、以前は暗やみでしたが、今は、主にあつて、光となりました。光の子どもらしく歩みなさい。:9 ——光の結ぶ実は、あらゆる善意と正義と真実なのです——」
- ・知恵のある賢い人として歩め : エペソ5:15、16「:15 そういうわけですから、賢くない人のようにはなく、賢い人のように歩んでいるかどうか、よくよく注意し、:16 機会を十分に生かして用いなさい。悪い時代だからです。」
- ・真理のうちに歩め : IIIヨハネ3、4「:3 兄弟たちがやって来ては、あなたが真理に歩んでいるその真実を証言してくれるので、私は非常に喜んでいます。:4 私の子どもたちが真理に歩んでいることを聞くことほど、私にとって大きな喜びはありません。」

「歩みなさい」という命令はこんなにも出て来ます。その歩みを実際に歩んだ人がいるのです。だれですか？イエス・キリストです。そのことを踏まえた上で皆さんに考えていただきたいことは、私たちが新しく生まれ変わったときに、主イエス・キリストによって罪から解放されて自由をいただいたときに、私たちが神からいただいた数あるものの中で一番大切だと言えるものは「聖霊なる神」だということ

す。クリスチャンのうちには聖霊なる神が住んでおられます。その聖霊なる神はあなたが救われた瞬間からあなたのうちにどのような働きを始めてくださったのか？それは「あなたを変える」という働きでした。

では、だれに似たものとして聖霊はあなたを変え続けて行くのでしょうか？あなたをどんな人に聖霊は変えようとしているのでしょうか？イエス・キリストです。よくご存じのⅡコリント3：18には「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」と書かれています。このような働きがもうすでに始まったということです。ピリピ書3：21には「キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。」とあります。主イエス・キリストの救いに与った私たちは聖霊なる神をうちにいただきました。聖霊なる神は私たちのうちに住んでいてくださるのです。そのことによって新しい歩みをするもの、また、新しい歩みができるものへと私たちは変わったのです。それが救いです。

コロサイ3：10でも「新しい人を着たのです。…」とこれは救われた人です。「新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。」、私たちクリスチャンは古い人と新しい人とが一つのからだに共存しているわけではありません。古い人を脱ぎ捨てて新しい人を着たのです。罪の奴隷であった私は死んだ、脱ぎ捨てたのです。そして、神の栄光のために生きる新しい人へと変えられたのです。ですから、新しい人を着た、救いのことですが、新しい人はどうなるのか？「造り主のかたちに似せられたますます新しくされ」るのです。

「御霊によって歩みなさい」、御霊なる神である聖霊は私たちをイエスに似たものに変えていきます。ということは、私たちがこれまで見て来た「このように歩みなさい」という命令は御霊によって歩むことによって実現するのです。この命令を実践することによってそれは現実のものになっていきます。

なぜ、私たちは御霊に満たされながら歩んでいくことが必要なのか？なぜ、私たちは御霊に支配していただくことを望みながらそのときを歩み続けることが必要なのか？すでに見て来ましたが、私たちのうちにはまだ罪の性質があるからです。この罪の性質は救われていないときのかつての生活に、自分中心の生活へ、罪の奴隷として生きて来た生活へと誘惑するのです。だから、聖霊の助けをいただきながらその罪に勝利し続けることが必要だ、だから、御霊に支配されて歩んでいきなさいと言います。

確かに、パウロが言うとおりに、私たちには罪との葛藤があります。神に喜ばれたい、喜ばれることをしたいという思いと、自分を喜ばせることをしたいという、そのような思いが私たちのうちに共存していることを皆さんは日々の生活で十分経験されているはずです。考えていただきたいことは、このような葛藤があなたのうちにあるということは、実は、もうあなたの心に新しい性質が与えられているということの証拠です。この葛藤は救いを拒んでいる人が罪を犯したときに感じる罪悪感ではありません。また、クリスチャンホームに育った子どもたちが、子どものときから教えられて来た聖書の教えに反することをを行ったときに、彼らが感じる罪悪感でもありません。それらは罪悪感であって葛藤ではないのです。

なぜ、葛藤を経験するのか？それは私たちの心の中に「神を喜ばせたい」という生まれつき私たちが持っていない思いが新たに心に与えられているからです。救いを拒んでいる人たちは共通して、この「神を喜ばせたい」とか「神の栄光を現したい」という願望をもっていません。また、私たちは罪を犯したときに「主を悲しませた」という責めが私たちの心を満たします。ですから、葛藤を経験するということはその人が救われているからであり、そして、確かに、私たち信仰者はその心の中に、二つの性質の相反するものが存在していることを覚えています。

パウロはそのことを教えた後、このように言っています。ガラテヤ5：16-17「16 私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。17 なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです。」、二つの対立した性質が私たちのうちにあると言います。「肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らう」と。

・御霊が願うこと：自分の思いどおりではなく、神のみこころに従っていきたいということです。自分ではなく神を喜ばせたいという思い、自分ではなく神に満足していただきたいと、そのような思いをもって生きようと御霊は私たちのうちに働くのです。

・肉の願うこと：それとは全く真逆の生き方です。みこころではなく自分の思いどおりに生きて行こう、神を喜ばせることではなく自分を喜ばせること、自分の快樂のままに生きて自分を満足させたいと、そのような思いです。

確かに、これら二つの願いが心にあってそれらは対立している、まさに、敵対し合っているということです。そして、「そのためあなたがたは、」と続きます。「自分のしたいと思うことをすることができない」と。

「新しい歩みをしたい」「自由人として生きたい」と思っているが、その実践ができないのです。どうして、こんな敵対状態にあるのか？クリスチャンの願いを果たさせないためです。お互いに、まさに、綱引きをしながら阻止し合っているのです。それで、自分のしたいことを思うようにできないと言います。どういうことか？私たちクリスチャンは神に喜ばれたいという願いがあります。しかし、肉はこれまでのように自分を喜ばせることをするようにと誘惑をしてその邪魔をします。そして、悲しいことに、私たちはその誘惑に負けて「したくないこと」をしてしまいます。こうして肉は働きます。

また、私たちは肉に負けてしまって肉の思いに従って生きようとする、そのような選択をするとき、御霊が私たちのうちに働いて、そういう思いが私たちのうちに実を結んでいくことがないようにと留めてくれます。まさに、こうしてこの二つの思い、二つの願いが敵対関係にあるのです。どちらも、それぞれの願いを果たさないように邪魔をするとパウロは言うのです。ですから、このような葛藤を経験すること、この二つの異なった性質をともにいただいているのがクリスチャンで、そうでない人が救いを拒んでいる者たちだと言えるのです。

18節を見ると「しかし、御霊によって導かれるなら、あなたがたは律法の下にはいません。」とあります。パウロは再びここで「御霊によって導かれる」歩みの大切さを強調しています。16節では「御霊によって歩みなさい」、18節では「御霊によって導かれなさい」、エペソ5：18では「御霊に満たされなさい」と、みな同じことを言っています。聖霊なる神によって支配され続けなさいと言うのです。もし、あなたがそのように歩むならあなたは「律法の下にはいません」とパウロは言います。この「律法の下」とは「肉によって生きる」ということです。もし、あなたが御霊に導かれて支配されて生きているなら、間違いなく、あなたは肉に導かれて生きていないということ。そのことをパウロは繰り返し教えて来たわけで、ここでも同じことを言うのです。

律法が何を教えて来たのか？思い出してください。律法を守るという行いをもって神に喜ばれるようになりなさいと、そういうことでした。一生懸命、この律法が教える良いことを実践することによって神に喜ばれる人になりなさい、神のご好意を得るために一生懸命頑張りなさいと。しかし、悲しいことに、律法を守り行うことによって人は救いを得ることもないし、また、さばきから自由にされることもありませんでした。聖霊によって生きないということは、自分の力によって、自分の努力で生きること、それがまさに律法が要求したことでした。

皆さん、この当時の人たち、もちろん、旧約の時代もそうですが、多くのユダヤ人たちはこの律法によってがんにめられていました。彼らは律法を守らなければなりません。もちろん、書かれた律法とことばで伝えられてきた口伝律法がありました。彼らはその律法によって大変窮屈な生活を強いられていたのです。神が教えていないのに、人間が記した律法によって彼らには自由がなかったのです。パウロが私たちに教えることは、あなたは良いことをしたから、善行を積んだから、神のご好意を得て救いに与ったのではないということ。どんなに頑張っても私たちは神の前に神に喜ばれることを行うことは不可能であって、救われたのは神の一方的な恵みです。

そして、私たちは律法からも罪からもさばきからも解放されて自由にされたのに、残念ながら、私たちは新たな律法を作り出してそこに自分を追いやっていくのです。こういうことさえしていけば神は喜んでくださるに違いない、こういうことを守っていけば神は喜んでくださるに違いないと。見て来たように、私たちはそのようなことをしています。知らないうちに、気づかないうちに、私たちは再び律法の許に自分を置いて、こういうことをしているから神に喜ばれるという偽りを信じてしまうという問題があるのです。ですからパウロは、あなたが信仰者として新しい歩みをするためのカギは、常に肉がそういう生活に戻そうとするから、いつもあなたはこの聖霊なる神に支配され続けることだと言います。それが為されるなら、神が喜ばれる歩みがそこから生まれて来るということを教えたのです。

今学んで来たことは初めて聞いたことではありません。聖霊なる神によって支配されながら生きていくことはもう何度も聞いて来たことです。そのように生きることが神に喜ばれる歩みであることも知っています。そこで、私たちの問題はこの真理を知らなかったということではなく、知っていながら実践できなかったということです。どんなに真理を知っていてもそれを実践するまでは自分たちの力にはならないということ、それも何回も聞いています。でも、私たちの弱いところは、神の真理が私たちの生活に生かされていないということです。神の真理が私たちの生き方を変えていないのです。確かに、知識は豊富です。でも、生き方が変わって来ない、そこに問題があります。私たちが知らなければいけないことは、このような大切な主の命令、御霊によって生きなさい、御霊に支配されて生きていきなさい、これをただ知るだけでなく、どうすれば実践できるのかを考えることです。

ですから、しばらくの時間、どうすればいいのかを見ていきます。その前に、次の真実をしっかり皆さんの心に刻んでおいていただきたいのです。「実践のための秘訣」です。あなたは「新しい歩みを実践することが可能である」ことを信じることです。信じなければ何も始まりません。もしかすると、そこ

にあなたの信仰生活の問題があったかもしれません。みことばを知っているけれど、本当に神が言われたことはそのとおりにするという、神のみことばに対する、神ご自身に対する信頼です。皆さんはこの話を覚えておられるでしょう。マルコの福音書9章に記されていること、口がきけない一人の男のことです。この人物は口をきけなくする霊に憑かれていたのです。マルコ9：17-18「:17すると群衆のひとりが、イエスに答えて言った。「先生。口をきけなくする霊につかれた私の息子を、先生のところに連れて来ました。:18その霊が息子にとりつくと、所かまわず彼を押し倒します。そして彼はあわを吹き、歯ぎしりして、からだをこわばらせます。それでお弟子たちに、霊を追い出すよう願ったのですが、できませんでした。」、そこでこの人はその願いをもってイエスの許に来るのです。そして、現状を話します。「:22この霊は、彼を滅ぼそうとして、何度も火の中や水の中に投げ込みました。ただ、もし、おできになるものなら、私たちをあわれんで、お助けください。」:23するとイエスは言われた。「できるものなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」、父親はこう言います。24節「するとすぐに、その子の父は叫んで言った。「信じます。不信仰な私をお助けください。」と。

あなたの問題はもしかするとここにあるかもしれません。神が言われたことは「そうなる」という信仰です。でも、私たちはすぐに自分で判断してしまいます。自分でできるかどうか？今までできなかったからこれからもできない…と。何度も学んでいるように、私たち信仰者の力は私たちにはないのです。ですから、皆さんの心に刻んでおいていただきたいことは「私は新しい歩みを実践できる」ということ、それがスタートです。その上で、では、どのようにしていくのか？見ていきましょう。

## ☆実践のための具体策

### A. 神の支配を求める : 神の力によって歩む

私たちが水泳を初めて学んだときのことを思い出してください。一番怖かったのは「沈む」ことの恐怖です。でも、水に慣れて来るとからだは浮くことに気付きました。でも、おぼれてしまうのは、水が怖いのは「沈む」という恐怖心があるからです。信仰に似ていませんか？「できない」と思っている人は、神が言われていることをやってみるその勇気がないのです。恐れているのです。あなたは浮くのです。実践できるのです。そのためには私たちには主の助けが必要です。主の力を求めるということは、主の力、神の力によって歩むということです。

最初に見たローマ6：4でパウロは大切なことを私たちに教えてくれます。「私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。」「主イエス・キリストのよみがえりは御父の栄光による」と書かれています。「キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、」と、つまり、パウロはイエス・キリストが死者の中からよみがえって来たのは、御父の栄光によってだと言います。では、この「栄光」とはどういう意味でしょう？「神の無限の偉大さ、完全さ、威厳」を表します。同時に、「神の全能の御力」を表します。

ですから、パウロは、主イエス・キリストがその死からよみがえって来られた、そのことによって、神はご自分がどんなことでもできる方、全能のお方であることを明らかになさったということを行っているのです。私たちがどうすることもできなかった死に対して敢然と勝利されたのです。滑稽なことに、人間は知恵の限りを尽くして主イエス・キリストのよみがえりを阻止しようとしてきました。墓の入り口には岩が立て掛けられてローマの刻印がありました。また、墓の周りには番兵が置かれていました。何とかして墓の中のイエスのからだを盗まれないように守ろうと。でも、三日後に、約束どおりに、イエス・キリストはその墓から敢然とよみがえって来られた。ローマの兵士でもだれもそれを留めることはできなかったのです。よみがえらされたイエスのみからだ、復活はまさに、父なる神が全能なるお方であることを明らかにしているとパウロは言うのです。

「…御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、」と続きます。つまり、イエス・キリストを死からよみがえらされたその神の全能の力が私たち信仰者に与えられているとパウロは言います。神の力はもうすでにあなたに与えられているのです。だから、神の命令を実践できるのはその力が与えられているからです。その力なくして神の命令に従うことなど不可能です。

1) 歩みの困難さ : もう一箇所、コロサイ1：29を見てください。「このために、私もまた、自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘しています。」と信仰生活の大変さを語り、その前の28節では「私たちは、このキリストを宣べ伝え、知恵を尽くして、あらゆる人を戒め、あらゆる人を教えています。それは、すべての人を、キリストにある成人として立たせるためです。」と、人々を成長へと導いていく働きもあることをパウロは言います。パウロの証を見ましょう。Ⅱテモテ4：7「私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。」、Ⅰテモテ6：12「信仰の戦いを勇敢に戦い、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたはこのために召され、また、多くの証人たちの前でりっぱな告白をしました。」

2) 歩みの力 : でも、29節には「私もまた、自分のうちに力強く働くキリストの力によって、」と書か

れています。この「力強く」とは「力、能力」です。その力は「キリストの力」であると説明しています。私たちがしっかり覚えなければならないのは「働く」という動詞です。これは「活動している、力を発揮する」ということです。まさにパウロは、パウロの中には実際に働いている、活動し続けているキリストの力があると言っているのです。与えられたキリストの力が私のうちで活動していると。その力が力を発揮しているのです。しかも、現在形ですから、活動し続けていると言います。これがクリスチャンです。

⇒ 「上からの力」は、神を畏れ、みことばを尊ぶ者の生活上のすべてのことについて、みこころ、神に喜ばれることを選択し、実践していくために与えられる力です。ですから、私たちクリスチャンは神が備えてくださる力によって神が託して下さった働きを為していくのです。

パウロはIコリント15：10でこのように言っています。「ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは、むだにはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです。」と。また、エペソ6：10で「終わりに言います。主にあつて、その大能の力によって強められなさい。」と言っています。大能の力をいただきなさいではなく、それによって「強められなさい」と言います。私たちクリスチャンに必要なのは、もしかすると、今あなたに必要なのは、弱い不完全な自分を見て神の命令ができるかどうかを判断するのではなく、全能の神を見て、その方が「わたしはこれをあなたに約束した。あなたにわたしの力を与えた。それを信じなさい。」と言われたときに、それを心から信じて「主よ、分かりました。あなたを信じます。どうか、その力を私に与えてください。その力によって生きることが出来るように助けてください。」とそのように生きることです。

力は与えられているのです。みことばが教えることは、その力によって、力に支配されて歩んでいきなさい、その力はもうあなたのものなのだからということなのです。

## B. 罪の支配を拒む : 許さない

ローマ6：12「ですから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲に従ってはいけません。」、二つ目に、みことばの実践のために必要なのは「罪の支配を拒む」ということです。それを許さないのです。6：12には「死ぬべきからだ」と書かれています。からだは滅んでいきます。弱っていきます。死に向かっています。ここだけが罪の攻撃を受けているのです。なぜなら、私たちの心は新しくされています。そして、私たちが後にいただくのは「新しい心」ではなく「新しいからだ」です。パウロは、罪によって攻撃されるからだ、肉によって誘惑されるからだ、それを罪の支配にゆだねてはならないと言います。この「支配」ということばは「王として治める」ということです。

パウロは、もうあなたは罪があなたを支配することを許してはならない、なぜなら、罪はもうあなたの主人ではなくなったからと言います。救われる前は罪が私たちの主人でした。ですから、その主人の言うとおりに罪を重ねて来ました。そこから救われた私たちはもう罪の奴隷ではないのです。神が私たちの主人です。ですから、パウロは「ですから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲に従ってはいけません。」と言うのです。

パウロが敢えてこのように教えているのは、私たちはいまなお罪の支配にゆだねて生きて行く可能性があるからです。そこで皆さん、私たちは知らないうちに罪に支配されてしまっていることがあるのです。私たちの問題は、そのことに気付いていないことです。少し、考えましょう。私たちは自分の心をいつも吟味することが必要なのですが、イエスが言われたことは「いつも喜んでいなさい」です。これは神の命令です。そして、私たちが分かっていることはいつも喜び続けることが可能だということです。新しくされた者はいつも喜び続けることができるのです。

さて、それでいながら、私たちの日々の生活において、その喜びをあなたから奪っていくようないろいろな出来事が起こります。たとえば、家に帰り着いたとき家の中がとてつもなく汚れていた、そうすると、扉を開けるまでは平安だったのに一瞬のうちに感情が高ぶります。経験されたことがあるでしょう。瞬間に怒りを覚えてしまいます。私たちの周りにはこのようなことが山ほどあります。電車に乗っていても、街を歩いていても、車に乗っていても、家にいても、いろんなときにいろいろな出来事に遭遇します。そして、その出来事がまさにあなた自身から喜びを奪っていくのです。そのときにこれまでの私たちがやって来たことは、「あの人が悪い」「こんなことが起こったからだめだ」「このことがなければ私はずっと平安でいたのに、喜んでいたので…」と、私たちが気付くべきことは、確かにそのことが起こりましたが、そのときに間違った選択をしたのは自分自身だということなのです。だから、喜びがなくなったのです。

確かに、あなたから喜びを奪っていくような出来事はたくさんあります。でも、神が私たちに求めておられることはそのような中であっても正しい選択を継続することです。パウロはこのように言っています。エペソ5：17「ですから、愚かにならないで、主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい。」と。

愚かな人は目の前に起こっている現象によって気持ちが昂ったり怒ったりします。ですから、パウロは「主のみこころは何かをよくわきまえなさい。」と言います。また、Iテサロニケ5：15では「だれも悪をもって悪に報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、いつも善を行うよう務めなさい。」と言っています。つまり、あなたに対する人の悪をあなたはコントロールできないのです。人があなたに酷いことを言ったり、酷いことをしたとしても、残念ながら、それをコントロールすることは私たちにはできません。でも、そのようなことが起こったときに、私たちは自分の悪をコントロールすること、自分の心をコントロールすることはできます。それが大切だと教えているのです。

「悪をもって悪に報いないように」と、人が悪をしたときに私たちは「目には目を！」と言って仕返しをするかもしれません。その瞬間に私たちは間違った選択をして喜びを失います。ですから、神が私たちに教えておられることは、たとえ、人がどんなことをしたとしても、どんなに辛いこと、どんなに悲しいことをしても、どんなに悪を働いたとしても、私たちはその中で正しい選択をすることです。どのようにして私たちは自分の選択が間違っていることに気付くか？私たちのうちから喜びがなくなってしまうからです。そのときに考えなければなりません。私のとった選択は正しかったのかどうか？と。

そのようにして私たちは自分の心を守っていくのです。罪の支配、ちょっとしたところから私たちの心に入って来て一瞬のうちに私たちから喜びを奪っていきます。先ほどまで感謝していたのに、その感謝を一瞬のうちに失くしてしまいます。ですから、注意しなければなりません。そして、いろいろな出来事が起こりますが、あなたが正しい選択をするなら同じ状況の中であなたは喜んでいきます。悲しくても辛くても喜びは無くなりません。もし、正しくない選択をするなら一瞬のうちに喜びは消えてしまいます。そして、あなたの心の中に怒りなどの正しくない思いがどんどん大きくなっていきます。

だから、罪を許さないことです。パウロがガラテヤ5：16で教えたように、私たちは肉の思い、肉の願いが私たちを満たすことのないように、ストップを掛けなければいけません。

### C. みことばの支配を求める

コロサイ3：16に「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。」とあります。ここにある「住ませ」ということばは「その人の心の中に宿ってその人を動かしていく」ということです。ですから、みことばによって心が支配された生活のことです。みことばはそのような働きをします。私たちの生活の中にみことばが生きているのです。また、「豊かに」という副詞は「少しではなく大量に」ということです。ですから、パウロはここで私たちがしっかりみことばを蓄えて、そのみことばが私たちの生活をコントロールするように、まさに、御霊に支配されるのと同じように、御霊にも私たちは支配されるのです。

そのためにどうすればいいのか？本来、私たちはみことばをもっと重視しなければならないのに何となく軽く扱っていませんか？礼拝に来て、そこで示された神のみこころを何日くらい憶えていますか？もしかすると、帰る途中でもう忘れていませんか。そのような人がどのようにして自分の生活が変えられて行くことを期待するでしょう？なぜなら、みことばは信仰の成長をもたらすからです。みことばは罪に対する勝利をもたらします。覚えておられますか？詩篇119：11「あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。」、詩篇119：133「あなたのみことばによって、私の歩みを確かにし、どんな罪にも私を支配させないでください。」、みことばは罪に対する勝利をもたらします。先ほど見たコロサイ3：16に書かれていたとおり、みことばは私たちに知恵を与えます。「知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、」と、それは成長するためです。神のおことばを教えることによって成長するのです。神のおことばをもって戒めることによって成長するのです。IIテモテ3：15にも「また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。」と書かれています。すべてのカギはみことばです。私の考えによって人々を成長させることは無理なのです。神のことばがそれをするのです。

同じ詩篇119：130に「みことばの戸が開くと、光が差し込み、わきまのない者に悟りを与えます。」と、神のみことばは私たちがどのように歩んで行けばいいのか？神は何を望んでおられるのか？どうすればそれを達成できるのか？それらに悟りを与えてくれるのです。皆さん、少し考えてください。本当にみことばがあなたの生活の中に最も大切なものになっているかどうか？です。日曜日にみことばを聞いたからもう十分だとするなら、しかも、帰る途上でそれをもう忘れていたら、神の働きを期待することなどできません。だから、私たちが新しい人として生きて行くためには、みことばによって自分自身を支配していただくことです。そのためにはみことばをしっかりと覚え続けることです。

また、みことばは私たちに喜びや感謝をもたらします。コロサイ3：16で教えていたように「詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。」と、そのような人へとみことばは変えていってくれるのです。だから、私たちはみことばを常に心に蓄えておくことが必要です。

皆さん、詩篇1篇のことばを憶えておられるでしょう。そこには「:1 幸いなことよ。」ということばで始まっています。神によって祝された者のことです。どんな人か？「…悪者のはかりごとに進まず、罪人の道に立たず、あざける者の座に着かなかった、その人。」、罪の誘惑に負けることなく、罪人とともに歩むことなく正しく歩んでいる人のことです。それが祝された人です。そのような歩みの秘訣が書かれています。「:2 まことに、その人は【主】のおしえを喜びとし、昼も夜もおしえを口ずさむ。」と。神に祝された歩みをしている人は、神のみことばを忘れないのです。みことばを蓄えているのです。暗唱聖句をしなくても、私たちはみことばに触れる時間がある、みことばが教えることを一生懸命憶えるように、いつもそれを思い起こしているのです。皆さん、工夫しなければいけません。年齢のせいにははいけません。それは分かり切ったことです。でも、みことばが私たちを変えるなら、みことばが私たちに祝福をもたらすなら、私たちが覚えるべきことは、どうすればいつもみことばに触れておくことができるのか？ということなのです。

私たちはみことばを学んで、神の真理を正しく知ることです。そして、みことばを忘れないように努めていくこと、工夫することです。もしかすると、皆さんは「私はこのようにしてみことばを忘れないようにしている。」と言われるかもしれません。それを聞いて参考にすることもできるでしょう。学んだことをどこかに書いておいてそれをいつも持って歩くこと、それも一つの方法かもしれません。自分に合ったことを見つけて、神が教えてくださったことを忘れないようにするのは、そして、教えられていることを実生活に適用するのです。このとき、何が神に喜ばれることなのか？何が神の前に正しいのか？と考えます。みことばによって支配されていなければ、その人は新しい歩みを実践することはできません。

#### D. 主に求める : 新しい生き方、救われた者としての生き方。そのために…

皆さんはマタイ6:33のみことばを良くご存じでしょう。「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」「求める」という動詞は「欲しがる、熱望する」という意味です。この箇所が教えることは「二つのこと」を熱望するということです。それは「神の国とその義」です。

1) **神の国を** : 地域的なことではなく神の支配のことです。つまり、「私を支配してほしい」ということです。神の意志、神のみこころを求めて生きて行くのです。ローマ14:8には「もし生きるなら、主のために生き、もし死ぬなら、主のために死ぬのです。ですから、生きるにしても、死ぬにしても、私たちは主のもので。」と書かれています。

2) **その義を** : この世のことに関心をもって生きるのではなく、キリストを喜ばせることに渴きと飢えを持つことです。神の完全な義と聖さを求めて生きて行くことです。

ですから、ここに書かれている人は「神さま、私は自分の考えではなく、あなたのみこころを知ってそれに従っていきたいです。そして、私はもっと聖い者になっていきたい。あなたに喜ばれる者になっていきたい。」とそういうことを求め、神の前にそのことを願いつづけている人です。また、「自分の罪を示してください」と求めることも必要です。詩篇139:24に「私のうちに傷のついた道があるか、ないかを見て、私をとこしえの道に導いてください。」と書かれているとおりです。

そして、「そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」と続きます。もし、あなたが「神よ、私はこんな人になりたい、あなたが教えてくださったそんな人になりたい。」と力の源である神の許にそのことを求めるなら、神が助けてくださいます。

皆さん、あなたが変わったならどのようなインパクトを周りの人に与えるか？想像してみてください。私たちが思い込まされていることは「私なんかだめだ。もう手遅れだ。」と。神はそのようには言っておられません。あなたを変えようと言われています。なぜ、その方に信頼を置いてそのように歩まないのか？です。求めなさい！と。

#### E. 信仰の友と助け合う

正しく生きて行こうと思うなら、新しい歩みをして行こうとするなら、自由人として生きて行こうとしたときに必要なのは「信仰の友」です。助け合っていくことです。パウロはIテサロニケ5:11で「ですから、あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。」と「互いに励まし合いなさい」と言います。互いに協力し合って徳を高め合っていくと。思い出してください。あなたの子供も？また、孫かもしれませんが、水泳を学び始めたとき、自転車に乗ることを始めたとき、その初めに必ず同じことを口にします。それは「見ておいて、バタ足するから見ておいて、自転車に乗るから見ておいて、」と、それは自分がどれだけできるのかを見せたいこともあるし、もっとうまくなりたいという思いもあるでしょう。

信仰生活においてもこれが必要だと思いませんか？「見ておいて！！」と。私がどのように生きているのか？正しいのか？間違っているか、弱いところは？教えてほしいと。そうすればバタ足しかできな

かったのがちゃんとクロールができるかもしれません。補助輪が外れて一人で乗れるようになる。成長していくためには助けがいるのです。だから、私たちはこうして集まっているのです。兄弟姉妹です。家族です。

私たちは新しい歩みを為すことができると、パウロはそのように言いました。そして、そのことを教えてくださった神は、「あなたにはそれができる」ということをみことばを通して繰り返し教えてくださった。あなたには神の力が与えられていることを繰り返し教えてくださった。神があなたに何を望んでおられるのか？イエスのことばを聞いてください。ルカ6：46「なぜ、わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、わたしの言うことを行わないのですか。」「行えるのにどうしてしないのですか？なぜ、あなたは自分でできるかできないかを判断するのですか？わたしがそれを助けてわたしの力によってできるのです。なぜ、わたしを仰ぎ見ないのか？なぜ、わたしに助けを求めないのか？」と神は言われます。

結局、問題はそこにあります。「できる」ということを信じることです。そして、それが私たちの信仰なのです。私のようなものを救ってくださったときに、私たちは神はそれができる方だと信じたはずです。そして、信仰生活も同じです。神が「できる」と言われていることを「できる」と信じるのです。ぜひ、そうしてみことばの実践に励んでください。私たちはみな新しい歩みをする必要があります。それが神が私たちに求めておられることです。そして、それが「できる」のです。どうすればいいのか？復習しながら、今日からその歩みをしてください。心からお勧めします。

#### 《考えましょう》

1. あなたはこれまでどのようにして罪の誘惑に勝利して来られましたか？
2. みことばは勝利についてどのように教えていましたか？
3. 勝利ある歩みを継続するための問題と秘訣を教えてください。
4. 今日、主があなたに教えてくださったことを信仰の友と分かち合ってください。